

平成28年度 各種調査結果等を活用した学力保障の取組事例

事務所名	盛岡	学校名	盛岡市立城東中学校	TEL	019-624-1524
------	----	-----	-----------	-----	--------------

各種調査・アンケート結果を反映させた組織的な取組み

【今年度の目標】

1. 全教科平均正答率で県平均を上回る。
2. 各教科における正答率50%未満の層の減少（20%未満は0に）、70%以上の増加。
3. 児童生徒質問紙「授業内容がよく分かる」の1番の回答を各教科とも増加させる。

【組織的な対応を図る上で工夫した点】

1. 全国学調問題を職員全体で解いてみる。（求められている力、身に付けさせたい力を分析し、授業改善につなげる。）
2. 各教科における取組みの内容（4月時点）

教科	取組み内容
国語科	「書くこと」の領域の指導改善に取り組む。学習時間内に考えを書く時間を確保する。
社会科	「社会的な思考・判断・表現」の指導改善に取り組む。
数学科	「数量関係」と「数学的な考え方」の領域の指導改善に取り組む。既習内容や経験をもとに根拠をもって考えるよう指導に取り組む。
理科	授業内での実験を大切に指導し、実験操作などを確実に習得できるよう指導に取り組む。
英語科	英作文の添削指導に取り組む。

3. 平成27年度の県学調結果を教科ごとにもう一度分析し直し、領域や観点をしばって取り組む。（上記2の取組み内容を更に教科部会で検討し、具体的に取組めるようにする。）

【具体的な取組】

1. 全国学調の国語・数学のB問題の一部を全職員で解いてみることにより、生徒たちに求められている力、それともなっているどのような授業実践が必要かを考える。
 - (1) 生徒に求められている力
 - ・論理的に説明する力。 ・「言葉」をつかむ力。 ・大量の文字を嫌がらずに読む力。
 - ・資料を読み取り、求められている情報を導き出す力。
 - ・日常生活に関わる問題を知識をもとに関連付けて答えを導き出す力。
 - ・既習事項を組み合わせて活用する力。
 - (2) 授業実践についての確認事項
 - ・取り扱う題材を日常生活に関わるものと結びつける指導を意識する。
 - ・活用するための基本的な知識を反復して身に付けさせる。
 - ・資料から読み取れることや筆者が意図していることをまず生徒に考えさせ、言葉や文章でまとめさせた上で教師が説明する。
 - ・共有できる指導内容を確認する。
 - ・知識・理解を問う選択問題で訓練し、学力向上を図る。

2. 教科ごとの取り組み

<国語科>

取り組んだこと	成果	課題と今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の領域について、類似問題を解かせ、添削と解説を個別に行った。教材ごとに条件作文の問題に取り組み、同様に個別に添削した。 ・文学的文章と説明的文章の学習の中で、文種の違いを明確にして繰り返し指導した。 ・文章構成やその特徴を捉え、既習事項を押さえながら、筆者の工夫している点を学習した。 ・語句の学習については反復学習を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題意識を持って学習課題に取り組ませるためにアクティブラーニングを取り入れて指導法を工夫した。 ・「書くこと」の問題の個別指導を行うことで、類似問題に対応できるようになってきた。 ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、県平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・得点分布から正答率40%以下の階層が10%近くおり、二極化している。学びがいのある学習課題を設定していきたい。 ・4領域中「話すこと」「書くこと」「読むこと」の領域が県平均を下回った。学んだことを振り返る活動を位置付けたい。 ・生徒の興味・関心に根差した単元づくりを心掛け、学習に取り組む意欲を向上させたい。

<社会科>

取り組んだこと	成果	課題と今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りを繰り返し指導した。(雨温図の見分け方、気候の特徴を確実に押さえること、等) ・グラフの読み取りを時間をかけて行った。 ・考察、説明に時間をかけて指導した。 ・正解率の悪かった「時差の問題」をきちんと時間をとって指導した。 ・単元のまとめ時間に弱点克服のプリント問題を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストや実力テストでは、実際に得点を伸ばしてきた生徒がいた。 ・単元のまとめの時には、復習プリントでまとめ、読み取りについても説明を行った。 ・「時差の問題」や「グラフの読み取り」の問題を授業中に説明した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時差」について、単なる数量的な取扱いに留めるのではなく、生徒の知的好奇心を喚起し、時差への関心を高める指導を工夫していく。 ・資料を読み取る指導の場面を位置付けるだけでなく、読み取ることと解釈することを区別した指導を工夫していく。 ・県学調の問題と授業を連動させ、教科内でのCAPDを確立しながら、補充が必要な単元・領域の指導を充実させていく。

<数学科>

取り組んだこと	成果	課題と今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・1次関数においては1年での復習および表・グラフ・式の関連性を明らかにしながら指導した。昨年度の学習定着度状況調査を定期テストに組み込み、定着を図った。 ・図形領域で、平行と合同の単元では、既習事項を使いながら、新たな性質を見つけるところで、根拠となる事柄を必ずいわせて、順序立てて思考することを心がけさせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県学調の「よくわかる」の回答が県と比較して4ポイント上がっている。昨年度と比較しても上昇している。また、関数領域の正答率が0.2ポイント昨年度に比べて上昇している。 ・定期テストにおいて、グラフと表との関連性についてはある程度の理解がみられた。 ・図形領域においては根拠を述べて求め方を説明できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県学調の正答率50%未満の減少・70%以上の増加の目標はどちらも達成できなかった。前年度より50%未満が若干増え、70%以上は減少していた。 ・中央値が県平均と同じだが、最上位25%と中上位25%で76名中34名と50%を下回っている。 ・基礎的な問題ではなく、思考を要する問題がまだ苦手な様子が見られるので、毎時間の授業でできるだけ考えさせる時間を設定していく。

<理科>

取り組んだこと	成果	課題と今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・実験のポイントを明確にする。 ・基礎基本を考慮した定期テストを作成する。 ・単元のまとめ時間に、弱点克服の補充授業を実施した。 ・テスト解説を利用した補充授業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・顕微鏡の使用に関わる、注意事項や使用方法に理解を深めた。 ・地層や岩石に関わる問題に取り組み、理解を深めた。 ・力（水圧と浮力）に関する問題に取り組み、理解を深めた。 ・光の進み方について、復習することができた。 ・消化吸収について、復習することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・県学調の問題と授業を連動させ、教科内でのCAPDを確立しながら、補充が必要な単元・領域の指導を充実させていく。 ・今後も実験を大切にしたい指導を継続していく。

<英語科>

取り組んだこと	成果	課題と今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト、熟語テストを繰り返し行った。 ・使用場面を意識したQ&Aなどに熟語を取り入れ、帯活動などで取り組んだ。 ・英作文を添削し、正しい英作文を書くように指導した。 ・単元ごとにまとめとなるようなテーマを設けて、英作文を書く機会を設けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や熟語を繰り返し書く機会を授業で設けることで、書くことに自信を持ってきている生徒が増えた。(県学調の結果から) ・使用場面を意識した言語活動により、言いたいことが伝えられるという意識が出てきた。(実力テストの結果から) ・英作文の問題では、未記入が少なくなった。(定期テストの結果から) 	<ul style="list-style-type: none"> ・対話とグラフの内容を読み取る問題が弱い。(県学調の結果より) ・初見の長文を読む機会は定期的に帯活動に取り入れているが、目的を持って読むという指導が足りなかった。 ・疑問詞疑問文の語順は理解が深まったが、Q&Aが疑問詞の疑問文の会話に偏っていたため、過去進行形の疑問文ができなかった。

【考察】

- 教科によって差はあるものの、重点を決めて取り組んだことにより、改善の傾向が見られる。
- 各教科部会毎に取り組んだことにより、より専門的に分析するとともに、その教科独自の取組を考え、実践することができ、そのことが課題の改善につながったと考えられる。
- 各教科で取り組んだ内容や成果、課題について、教科を問わず共通する内容や全職員で共有すべき点について確認する必要がある。

【成果】

- 全国学調のB問題を職員全員で解いてみることによって、生徒に今求められている力が、どのようなものなのかを考え、共有することができた。
また、今後の授業で
 - ・活用するための基本的な知識を反復して身に付けさせる。
 - ・生徒に考えさせ、言葉や文章でまとめさせた上で教師が説明することなどを実践していくことを確認することができた。
- 各教科で、再度27年度の県学調について分析し、重点をしぼって取り組んだ。特に昨年度の県と比べて下回っている領域や観点についてを重点として、各教科で手立てを講じて取り組んだ結果、表のように取り組んだ領域や観点については改善の傾向が見られた。

◆各教科取り組み内容に関わる領域・観点の県学調にみる正答率の変化

	領域・観点内容	H27 県平均との差	H28 県平均との差	昨年度からの 伸び	比較
国語	書くこと	- 0.4	- 2.6	- 2.2	×
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0.8	3.5	+ 2.7	○
社会	社会的な思考・判断・表現	- 10.6	9.3	+ 19.9	◎
	資料活用の技能	- 5.0	- 5.6	+ 0.6	○
数学	数学的な考え方	- 2.4	- 0.7	+ 1.7	○
	数量、図形などについての知識・理解	- 1.1	2.6	+ 3.7	○
理科	観察・実験の技能	- 6.8	5.7	+ 12.5	◎
英語	書くこと	2.5	3.7	+ 1.2	◎
	表現の能力	10.3	6.3	- 4.0	×

○ 今年度の目標の達成状況

- 1 各教科平均正答率では、数学・理科・英語の3教科で県平均を上回ることができた。
- 2 20%未満の層0は国語で達成することができた。50%未満の層の減少は国語・社会・理科・英語の4教科で達成することができた。70%以上の層の増加は国語・社会・理科・英語の4教科で達成することができた。
- 3 質問紙「授業がよく分かる」1番の回答は、国語・数学・英語の3教科で増加させることができた。

◆各教科平均正答率

	国語	社会	数学	理科	英語
県	70.5	44.9	51.1	47.7	41.8
本校	69.1	44.9	52.1	51.8	44.4
県との差	-1.4	0	+1.0	+4.1	+2.6
比較	×	△	○	○	○

◆質問紙「授業がよく分かる」1番の回答比較

	国語	社会	数学	理科	英語
H27	41	33	16	44	10
H28	47	12	42	34	32
差	+6	-21	+26	-10	+22
比較	○	×	○	×	○

◆各教科における正答率20%未満・50%未満・70%以上の前年度との比較

	国語			社会			数学			理科			英語		
	H27	H28		H27	H28		H27	H28		H27	H28		H27	H28	
70%以上	50	53	○	6	15	○	26	22	×	7	10	○	23	24	○
50%未満	17	14	○	68	63	○	41	42	×	63	59	○	55	64	×
20%未満	2	0	○	10	9	○	16	10	○	9	35	×	7	18	×

【今後に向けて】

- 各教科において学力調査結果等を基に、重点を決めた指導による成果が表れてきている。この取組による、教科部会の動きが活発になったこともあり、今後も継続し、課題の克服に努めたい。
- 各教科の取組だけでなく、学校全体の組織としての取組も重視していく必要がある。具体的には、「いわて授業づくり3つの視点」を授業へ位置付け、全職員で共通理解し、教科を問わず徹底して取り組んでいくこと、その取り組みの進捗状況を定期的に確認すること、これらによって、本校の生徒の学力を今後更に伸ばせるよう取り組んでいきたい。